

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立高木瀬小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和6年4月18日（木）

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童（中学校3年生生徒）

■ 調査の内容

（1）教科に関する調査（国語、算数・数学）

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
 - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

（2）生活習慣や学習環境等に関する質問調査

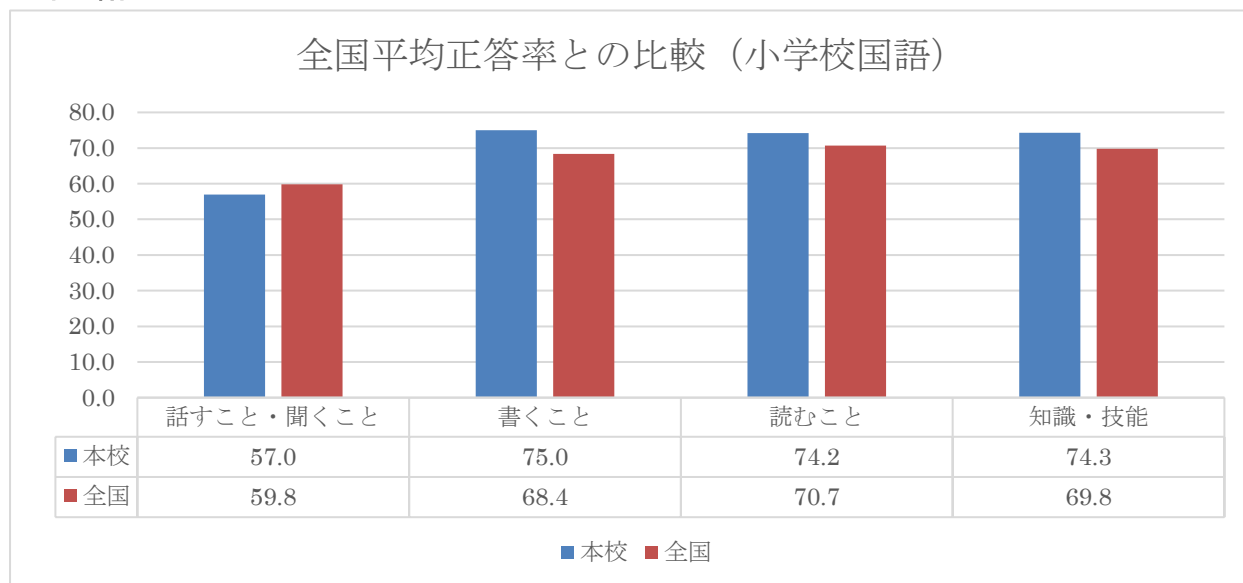
児童（生徒）に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、 基本的な生活習慣、家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、 学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

■ 調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

「書くこと」「読むこと」「知識・技能」は、全国平均正答率を上回っています。また、無解答率をみると、全問題で全国平均よりも低くなっています。しかし、「話すこと・聞くこと」については、全国平均正答率を下回っています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「知識・技能」の正答率が全国平均正答率を 4.5 ポイント上回りました。その中の「言葉の特徴や使い方に関する事項」でも、全国平均を大きく上回っていますが、特定の漢字や言葉の使い方については、正答率が低い問題も見られました。普段から、漢字や言葉の学習などに取り組みに加え、日頃から正しく使っていく意識の向上があると捉えています。課題は、「話すこと・聞くこと」についての正答率を上げることです。自分の考えが伝わるように表現を工夫したり、目的や意図に応じた効果的な資料を作ったりして話したり聞いたりする力が必要であるといえます。授業改善を通して、日々の授業で力を付けていくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

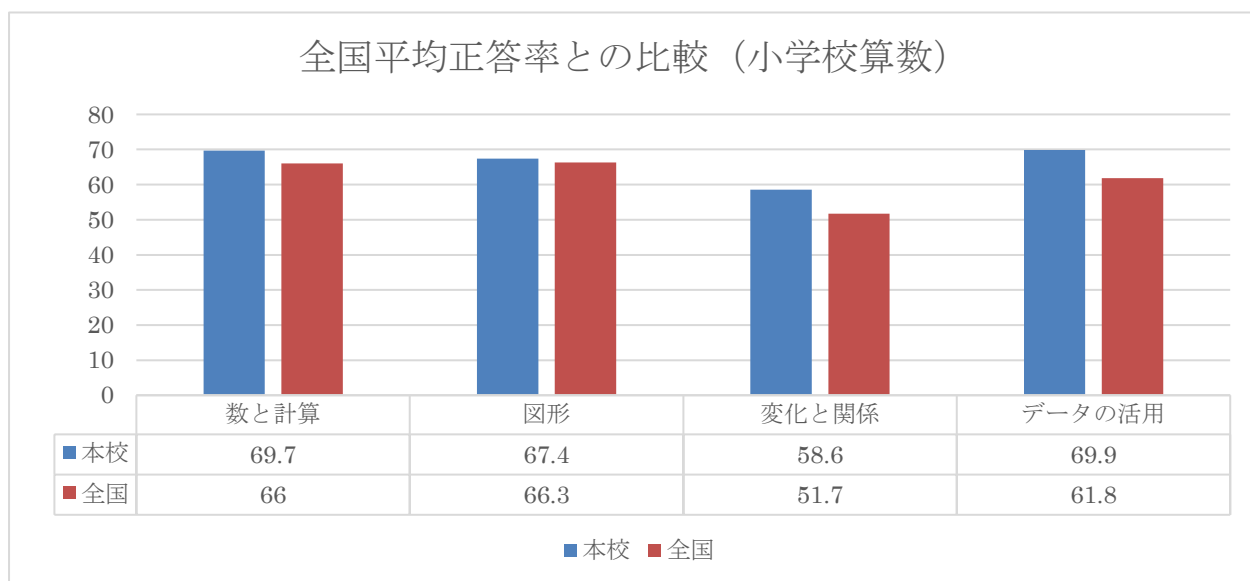
【学校では】

- 身につけるべき資質・能力を子どもたちと共有して単元の学習に臨み、視点をもって振り返りを行います。
- 漢字の読み書き、言葉の学習に一層力を入れるとともに、日記などで学習した言葉を使って文章を書くなどの場面を設定します。また学習用端末のドリルを活用した家庭学習を設定していきます。
- インタビュー、案内や紹介など、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろんな本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、お子さんの読書習慣をつける上でおすすめです。

2 算数



(1) 結果

すべての領域で全国平均正答率を上回っています。無回答率についても、全問題で全国平均より低くなっています。

(2) 成果と課題

式や言葉を使って説明する機会を増やすなどの授業改善の成果が少しずつ表れていると考えられます。課題は、問題場面の数量の関係を捉えて式に表す問題の正答率を上げることです。道のりと速さと時間の関係や、立体の体積を求めるために必要な長さを正しく見つける問題などで全国平均正答率を下回りました。

授業で学んだ求め方（公式のようなもの）を正しく活用できるように、式の意味を考えたり、場面把握をするために図を活用して考えたりする力が必要であるといえます。式、絵や図、具体的場面を行き来させることで、実感を伴った理解ができるように、授業改善を通して、日々の授業で力を付けていくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 身につけるべき資質・能力を子どもたちと共有して単元の学習に臨み、視点をもって振り返りを行います。
- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにします。
- 単元の学習に必要な既習事項の確認や日々の指導の中で個々のつまづきを明らかにして、学習用端末のドリルを活用した家庭学習を設定していきます。

【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 算数を好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身のまわりには算数を使えるものが意外とあります。

3 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結 果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した児童(生徒)の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	75.2%	83.4%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	38.0%	39.7%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	52.7%	56.1%
自分にはよいところがあると思いますか。	44.2%	43.4%
将来の夢や目標を持っていますか。	69.8%	60.6%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	76.7%	71.1%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	85.3%	79.5%

目指す目標をもつことや規範意識については、肯定的な回答をした児童が全国平均よりも高い結果が出ています。起床や就寝の時間、朝食をとるなどの生活習慣についての回答について、全国平均より低い結果が出ています。生活リズムを大切にしていくことはとても重要ですので、家庭と学校とで協力して習慣化していきましょう。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか。「3時間以上」	6.2%	11.0%
「2時間以上、3時間より少ない」	20.2%	12.5%
「1時間以上、2時間より少ない」	29.5%	31.1%
「30分以上、1時間より少ない」	31.8%	27.0%
「30分より少ない」	10.1%	13.0%
「全くしない」	2.3%	5.3%

家庭学習については、1時間未満の児童が4割以上おり、かなり個人差も見られます。「家庭学習の手引き」をもとに、家庭での学習の必要性を児童や保護者ともう一度共有することで、習慣化するように指導をしていきます。また、自分の目標達成のために、自分に必要な内容を考えて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 家庭での読書や学習用端末のドリル問題の活用、タイピング練習や調べたことをレポートにまとめる（自学ノート）など、宿題にプラスした学習方法のバリエーションについて指導をしていきます。
- 睡眠時間の確保や生活リズムを整えることの重要性について、学級活動などの時間を利用して指導をしたり、「ほけんだより」などで啓発をしたりしていきます。

【ご家庭では】

- 上記の項目は、毎学期実施の「すこやか点検」でも取り上げている項目です。「すこやか点検週間」において、学校と家庭で協力して子どもたちへの声かけをし、意識を高めていきましょう。規則正しい生活と家庭学習の定着を図ることは、とても大切なことです。お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したときを逃さずに褒めることで、意識がさらに高まります。
- お子さんの学年に合った学習時間を自分で決めて取り組むことができるように励ましてください。また、ゲームやスマートフォン利用の時間について、お子さんの利用状況を確実に把握し、使い方についての約束をお子さんと一緒に考えて実践してください。